

【第1号議案】 2020年度事業報告・決算報告・監査報告承認の件

2020年度事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

1、フードバンク事業

フードバンク事業は、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄される食品を個人や企業から寄贈してもらい、生活困窮世帯・ひとり親家庭への食のセーフティーネット事業を支え、また食品ロスとなる食品を活かして福祉団体への無償提供を行う。今年度は、狛江市より市庁舎1階未使用部屋と西野川の遊休施設の貸与を受けることで食品在庫スペースの拡張と市庁舎内での直接食品受け渡し、市民寄贈受付などでフードバンク活動を飛躍的に拡充することができた。また、お米保管等備品の設置提供により品質管理の向上も図れた。

(1) 食品の集荷・フードドライブ

2020年度入庫(食品寄贈)集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (Kg)
市民	169.8	323.0	270.6	131.1	158.9	276.9	182.0	237.1	382.3	183.3	181.7	205.9	2,702.6
常設	13.7	16.4	48.1	87.4	147.3	116.3	95.6	92.5	335.9	105.7	125.5	146.7	1,331.1
企業・団体	652.4	1,178.0	1,377.5	697.2	189.8	716.4	1,367.3	739.8	880.3	798.1	1,174.1	325.1	10,096.0
イベント													0.0
生協	0.0	17.0	357.4	1,000.0	27.0	238.0	35.0	52.0	26.3		441.7		2,194.4
助成金で購入					200.9	92.4			82.8				376.1
廃棄									20.0	7.9	17.0		44.9
<b>合計(Kg)</b>	<b>835.9</b>	<b>1,534.4</b>	<b>2,053.6</b>	<b>1,915.7</b>	<b>723.9</b>	<b>1,440.0</b>	<b>1,679.9</b>	<b>1,121.4</b>	<b>1,727.6</b>	<b>1,095.0</b>	<b>1,940.0</b>	<b>677.7</b>	<b>16,745.1</b>
<b>(内米)</b>	90.3	458.5	94.2	1,162.6	169.0	323.4	685.5	334.6	236.7	190.2	273.3	259.3	4,277.6

- ① 市民寄贈＝フードバンク事務所/倉庫への持ち込みや、宅配便で届けられた市民からの寄贈食品。  
ひとり親世帯への食料支援実施前に、食品寄贈を呼びかけて寄贈量が増える月もあるが、団体設立当初からの他都市から食品寄贈してくれる個人、コロナ禍で新たに繋がった支援者や通りがかりの匿名で購入して食品寄贈・寄付者も増えた。
- ② 常設のフードドライブ(寄贈受付場所)＝コロナ禍で常設の寄贈受付場所を増やすことやイベント中止で寄贈食品の集荷もできなかったが、寄贈量は昨年比1.3倍へ増加。市民には寄贈場所として食品を持ちこめる常設場所が地域に知られるようになってきて、その効果はコロナ禍でも大きな追い風となった。

常設	総重量(kg)	うち米(kg)
こまえくぼ 1234	232.7	630.0
こまえ苑	140.9	278.2
こまえ正吉苑	15	82.6
社会福祉協議会(あいとびあセンター)	124.5	346.8

③ 企業・団体＝賛助団体である 3 色パステルアートからは、不足食品を毎月購入してアマゾン便や山形米20kgが届く。おてらおやつクラブ華巖院(町田)からは、頻回にお供えの果物等の寄贈があり、市の相談窓口や連携団体にも喜ばれている。福島支援で米を購入して 2 か月に一度寄贈(コロナ禍3倍に増量)の東京すずらんの会など、定期的な支援で支援事業を継続できたといえる。全国フードバンク推進協議会の企業提供食品の斡旋だけでなく諸団体からの未利用食品の寄贈もあった。今年度もカーブス2店舗からのフードドライブによる食品寄贈もあった。

コロナ禍に年間食品集荷量が今年度16トンを超えた理由としては、以下のように寄贈先が増えていることがあげられる。

2020 年度食品等を寄贈いただいた企業・団体一覧			
華巖院(おてらおやつクラブ)	フードバンクかわさき	広田米店	第一生命保険(株)
IQVIA サービスーズジャパン(株)	フードバンク三鷹	江崎グリコ(株)	調布・狛江地区保護司会
JR 東日本ウォータービジネス	フードバンク秋田	狛江市安心安全課	(株)天塩
JA マインズ 狛江支店	フードバンク調布	狛江市中学校給食センター	天理教江東分教会
カーブスアメリカ稲城店	マルコメ(株)	狛江市社会福祉法人連絡会	東京すずらんの会
カーブス祖師谷大蔵店	モランボン(株)	狛江第四中学校	食品ロスリボンセンター
カゴメ(株)	(株)NTT ドコモ	三色パステルアート	東京都福祉保健局
キューサイ(株)	(株)クラダシ	三菱ケミカルフーズ(株)	日本蜂蜜(株)
キューピー(株)	(株)プランニングオフィスエスエムエス	新日本空調(株)	堀口珈琲
コココーラボトラーズジャパン(株)	NPO 法人ポラン広場東京	世田谷区福祉協議会	明治ホールディングス(株)
正受院(おてらおやつクラブ)	(株)ローソン	青山商事(株)	(有)エイソアイ・コーポレーション
こまえこども食堂	(株)ロッテ	全国農業協同組合連合会	養命酒造(株)
(株)タニタ	(株)田島電興社	創価学会会員奉仕局	(株)ビィオラ食養
トータス往診クリニック	(株)龍角散	大木製薬(株)	敬称略・順不同

#### 企業・団体と市民からの食品寄贈量年度別推移

年度	企業・団体寄贈量	市民の直接寄贈量
2020 年度	10,161kg	2,741kg
2019 年度	8,462kg	1,824kg
2018 年度	5,289 kg	1,840 kg
2017 年度	5,083 kg	2,015 kg
2016 年度	1,294 kg	1,019 kg



③ イベントでのフードドライブ＝コロナ禍の一年は全てのイベントが中止となった。団体で開催したい交流会や講演会も開催できずにいるため、イベントを通じてのフードドライブ実施は絶望的な一年となった。

④ 生活協同組合 4 団体による支援＝本年度も生活協同組合4団体による食品寄贈が、フードバンク狛江の食料支援事業を支えたといえる。東都生協によるフードドライブは、今年度も2回取り組まれ寄贈を受けた。さらに「未来につなぐ募金」を活用した臨時支援(食品提供)で約 438,000 円相当の商品寄贈を受けた。コープみらい染地店からは、流通にのせられないロス食品の提供寄贈を受けている。残念なことに、設立当初からフードドライブや講演会で支援を受けていた東京南部生協が9月、東都生協へ事業移譲と決まり、最後に多額の寄付をいただいた。また、夏のひとり親支援の前に多摩南生活クラブ生協から初めての支援で、1トンものお米の寄贈を受け、ひとり親家庭へ各世帯5kgの米を提供でき、大変喜ばれた。



		総量 kg	うち米 kg
コープみらい染地	5月・8月・10月・2月	130.3	129
多摩南生活クラブ生協	7月	1000.0	1000
東都生協入間センター	6月・9月・11月・2月	1064.1	166.8

※ 特筆すべきこととして、2020年、狛江社会福祉協議会が声をかけて、社会福祉法人会の6団体が初めてフードドライブに取組んでもらって、97.4 kgの寄付食品を受け取りに狛江保育園を訪問した。また創価学会奉仕局からの寄贈で米を500kg頂戴し、米の提供に困ることのない一年を過ごせたと言える。



## (2) 地域の福祉団体への食品提供

コロナ禍の第1波の時期は、ほぼ団体への提供停止を余儀なくされ、団体も(食堂系など特に)緊急事態宣言中では、活動できない時期や活動内容を変えている。地域の活動中の団体や宿泊・食事提供のある団体は第2波以降食品提供を再開し、連絡したら受け取りに来るなどして現在も継続できている。

【連携団体の名称一覧】

団体提供総重量 = 6,589.7 kg

敬称略・順不同

comarch	ひかり作業所	狛江子ども食堂	あったかごはんありませ
NPO 法人 えるび	ホームこまえ通り	月末食堂	フードバンクかわさき
グループホーム朋	陽向会ワークひなた	ごはん+居場所おかえり	フードバンクみたか
狛江共生の家	遊育会狛江プレーパーク	子どもの多摩里食堂	フードバンク調布
ハンズプレイス	フリースクール koppie	みんなの居場所	こま YELL
府中派遣村	狛江派遣村	自立支援ホーム わかば荘	子ども政策課

提供先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (Kg)
団体	重量	571.2	83.4	416.6	930.8	78.7	178.2	1,929.0	357.4	722.0	879.0	79.7	363.7	6,589.7
	(内米)	0.0	0.0	0.0	5.0	3.0	0.0	96.0	161.3	67.0	0.0	5.0	34.0	371.3
	件数	3	4	5	9	6	2	13	20	.	16	6	14	98

## 2、食のセーフティーネット事業

食のセーフティーネット事業とは、狛江市と食料支援連携協定により、福祉相談課生活困窮相談窓口こま YELL の依頼書により、困窮世帯に合わせた食品の提供をする事業と、2018 年から夏休み・冬休み・春休みのひとり親子育て応援で申し込みのあったひとり親家庭への食料支援事業のこと。ひとり親家庭には、子ども政策課の 8 月児童扶養手当現況届提出の案内時と 12 月医療助成の医療証書送付時、「給食のない時期、ひとり親子育て応援の食料支援の案内」を同封、周知してもらっている。3 月は夏・冬につながった世帯にメール等で案内送付している。

### (1)こま YELL を通じた食料支援

提供先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (Kg)
こま YELL 個人支援	重量	343.5	356.2	409.8	430.6	357.8	408.7	397.0	365.5	317.1	291.9	374.9	442.5	4,495.5
	(内米)	109.9	93.2	153.7	165.8	152.7	147.6	153.5	127.0	99.0	99.6	128.8	144.0	1,574.8
	備蓄提供	1	1	1	0	0	5	4	1	0		1	2	16
	件数	86	100	109	104	100	104	102	93	76	79	101	116	1170
学習支援	重量					23.4		24.4		23.2			21.8	92.8
	件数					26		29		29			27	111

#### ① 市庁舎:こま YELL への食料提供

開所日、毎週月曜・木曜の午後 1 時から 3 時は、市庁舎作業所で食品寄贈受付とこま YELL の依頼書により食品をセッティングしている。コロナ禍第 1 波の時期、多忙となったこま YELL は相談員を増やし 2 カ所での分散業務で、作業所の使い方など行き違いもあった。コロナ禍、依頼件数が急増したが、感染しやすい高齢ボランティアを止め、1~2 名での対応とし、提供する食料も量を一時期減らしたこともあった。第 2 波以降、ボランティア・スタッフの努力で感染防止策をとって、現在までこま YELL の依頼に応える活動を維持できている。

7月になって、2者協議・3者協議をようやく開催できた。相談窓口でのアセスメントが不十分になって食料支援依頼件数が増えた一方で、生活保護がそれほど増加していない。「生活保護はハードルが高く、気持ちのうえでも食料支援を受けて立て直したい人が多い。」と生活支援担当の話があった。

支援実績は月平均で97.4件、支援総重量年間約4.5トン、コロナ禍の為に、食料支援利用者に10代が入ってきた。年代別の構成は20・30歳代から70歳代以上も多く、世帯人数も単身をはじめ家族3~4人世帯と幅広い。



こま YELL 個人支援					
	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
食料提供回数	233 回	478 回	682 回	646 回	1170 回
月の平均支援回数/月	20 回	39.8 回	56.8 回	53.8 回	97.4 回
食料支援量	1,112kg	2,780kg	3,955 kg	3,968.2 kg	4,511.5kg

② こま YELL 学習支援は家庭訪問がコロナ禍でできなくなり、夏に場所を変えて再開。お菓子・飲料の提供も再開した。夏休み7月、ハロウィンの10月、クリスマス・正月の12月、春3月進級・卒業時の年間4回。春には卒業や進級など、その子に合わせた手書きメッセージカードをつけて提供。毎年開催されてきた学習支援ボランティアとの交流会は、残念ながらこの一年は開催されていない。

集合しての学習が苦手な子や遠くて通えない等で、学習支援の必要な子がまだいると聞く。コロナ収束後、家庭訪問型に戻って、生活支援サポートとしての学習支援ができることを願ってやまない。

こま YELL 学習支援				
	夏休み	ハロウィン	クリスマス	春休み
件数	26	29	29	27
お菓子・飲料提供量	23.4kg	24.4kg	23.2kg	21.8kg

子ども政策課(旧子育て支援課)でも今年度の10月から、ひとり親家庭の小中学生の学習支援事業がはじまり、子ども政策課の依頼もあり、子どもたちに12月24日クリスマスイベント用でお菓子・飲料(9件・7kg)提供を行った。春も13名(13件・15.6kg)へ、卒業・進級の子どもへの手書きメッセージも付けて提供した。

## (2) 学校給食のない時期のひとり親子育て応援の食料支援

子ども政策課の周知協力(児童扶養手当現況届封書・医療証送付に同封)で案内を送付し、配送と直接受け取り方式で食料支援を実施。返送アンケートには、コロナ禍で仕事・収入の生活苦の中、家計の大きな助けになっている

ことだけでなく、スタッフの声掛けや手書きのメッセージが喜ばれ、孤独を感じる子育てへの応援の気持ちを受け取り感謝の想いも多く綴られている。春の支援のアンケートに、ひとり親同士の交流の場、話す相手(友)がないなども書いてあり、多くのひとり親が、交流できるような場を切実に求めていることが分かる。

(詳細はホームページ「ひとり親子育て応援」を参照 <https://fb-komae.org/> )



支援申し込み数					
	世帯数	総人数	高校生以下人数	世帯主他の人数	食料支援量
2021年春休み	102	298	167	29	1,210.3kg
2020年冬休み	116	332	184	32	1,655.9kg
2020年夏休み	107	300	165	28	1,358.9kg
2020年春休み	67	177	99	11	787.2kg
2019年冬休み	57	147	84	6	583.9kg
2019年夏休み	64	170	97	9	665.9kg
2019年春休み	39	106	62	44	376.1kg
2018年冬休み	50	136	77	59	506.3kg
2018年夏休み	44	122	67	55	431.5kg

子ども(高校生以下)の人数内訳				
	小学生未満	小学生	中学生	高校生
2021年春休み	18(11%)	57(34%)	40(24%)	52(31%)
2020年冬休み	28(15%)	63(34%)	44(24%)	48(26%)
2020年夏休み	18(11%)	62(37%)	41(25%)	44(27%)
2020年春休み	10(9%)	43(39%)	23(21%)	23(21%)
2019年冬休み	11(13%)	35(42%)	21(25%)	17(20%)
2019年夏休み	11(11%)	35(36%)	32(33%)	19(20%)
2019年春休み	9(15%)	21(34%)	18(29%)	14(20%)
2018年冬休み	12(15%)	29(37%)	20(26%)	16(20%)
2018年夏休み	7(11%)	29(43%)	17(25%)	14(21%)

コロナ禍の緊急食料支援で4月にひとり親家庭も含む41世帯へ提供を行った。また給食のない時期だけでなく、「ひとり親家庭へおすそ分けお渡し会」として6月(47世帯)・10月(40世帯)にメールで案内を送付し、企業・団体などのロス食品を活かして、お米も追加し、事務所で受け渡す食料支援も開催した。

### (3)こま YELL 以外の緊急食料支援の状況

コロナ禍で、他都市からの SOS への対応も行ってきた。他都市支援は、緊急支援として原則一度限りという了解を取り、食料提供する。SOS の状況を聞き、その行政区で繋がれる公的・民間の支援やフードバンクを紹介し、継続支援を受けてもらえるよう薦めている。今年度は4月の緊急事態時の支援提供を含め、57件417.7kg(昨年度19回178.2kg)を提供した。

さらに行政窓口が閉まっている年末の SOS に対応して福祉相談課からの依頼で、食料支援 10 セットを年末に行ったが、使われることがなかった。

12月20日(日)はコロナ困りごと相談会(チラシをひとり親家庭へ同封)に13名、100.6 kgの食品提供を行い、団体からの参加協力も行った。ひとり親1名から「同送チラシを見て相談に行って良かった。」とアンケートに書かれていた。

		件数	総量 kg
他都市個人支援	個人	12	91.4
狛江市個人支援	コロナ緊急食糧支援	41	295.2
	ひとり親特別	1	13
	個人	3	18.1
計(昨年度)		57 (19)	417.7(178.2)

### 3、フードバンクの普及・啓発事業

2019年10月念願だったフードバンク活動への支援も盛り込んだ食品ロス削減推進法が施行され、2020年には市の条例や施策にする動きを加速させ、地域へ広げていくよう動いていくところだったが、コロナ禍の終息の見通しもたたず、イベントは中止、講演会や交流会開催に工場見学などの事業にほとんど取り組めなかった。一方、フードバンクへの期待や需要は大きくなる社会情勢を迎え、感染防止策を徹底しながら、寄付の増加やコロナ禍の支援要請増に応えられる団体として運営し、必要な啓発事業・普及のための広報にも取り組んだ。

① イベントや団体交流会は開催できず、食品ロス削減推進月間に市庁舎での「食品ロス」パネル展示のみ実施。

② 理事長の講演による広報

狛江市社会福祉協議会より今年度も福祉カレッジから講演依頼を受け、12月5日リモートによる45分の講演を実施(パワーポイントで講演後に配信動画をもらう)公民館第3回講座で「ポストコロナの食を囲んだ居場所づくり」2020年3月7日に豊島区 WAKUWAKU 代表の栗林氏の基調講演後に4名のパネラーのひとりとしてフードバンク狛江の活動を紹介。



③ 媒体を利用した広報活動

各媒体を通して、食品寄贈やお金の寄付、ボランティア希望、困窮者から食料支援の SOS の連絡が寄せられた。

#### ■ 紙媒体

イベント・講演会開催に向けてチラシやポスターを作成し活用した。今年度はチラシの作成に、助成金の読売光と愛の事業団子ども育成事業助成金を一部活用した。

ニュースレター	合計4回	2021年2月 No.26 2020年12月 No.25 2020年8月 No.24 2020年4月 No.23
チラシ * 公営掲示板・公共施設・町内会・スーパー等で配布/掲示	合計4,700枚	2020年7月 1,500枚:夏休み子育て応援食品寄贈 2020年9月 1,000枚:食品ロス削減月間 2020年9月 500枚:マンスリーサポーター 2020年11月 1,200枚:冬休み子育て応援食品寄贈 2021年2月 500枚:春休み子育て応援食品寄贈

▪ インターネット媒体

facebook	7日~10日ごとに更新(理事長)	<a href="https://www.facebook.com/foodbank.komae/">https://www.facebook.com/foodbank.komae/</a>
ホームページ	イベントの告知や報告随時更新	<a href="https://fb-komae.org/">https://fb-komae.org/</a>

▪ テレビ、新聞、雑誌など

2020年4月1日	広報こまえ	フードバンク事務所・倉庫移転のお知らせ
6月1日	情報誌わっこ	「この人と」に理事長インタビュー掲載
7月5日	狛江のFM ラジオ	コロナ禍の活動とひとり親夏休み支援の食品寄贈呼びかけ
10月1日	広報こまえ	10月食品ロス削減月間パネル展示のお知らせ
11月27日	狛江のFM ラジオ	コロナ禍の活動とひとり親冬休み支援の食品寄贈呼びかけ
12月1日	情報誌わっこ	冬休み子育て応援、食品寄贈呼びかけ
12月15日	読売新聞武蔵野版	「コロナ困窮家庭に食品を」フードバンク狛江冬休み支援掲載
12月22日	NHKニュース7	「年末年始NPOの協力で食料支援」市庁舎作業を撮影
2021年1月7日	調布 FM ラジオ	街角レポート出演、コロナ禍の活動の様子を紹介
3月1日	情報誌わっこ	春休み子育て応援の食品寄贈呼びかけ



▪ その他

- 和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板や支援者宅での掲示。
- パルシステム東京の機関誌「わいわい」2020年4月号、雑誌「となりて Vol3」2020年9月号に記事掲載

## 4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

今年度は、ひとり親子育て応援に申し込みのあったひとり親家庭に、案内送付とアンケートを実施した。  
(詳細は実施報告書を参照)

## 5、表彰

狛江市制施行50周年にあたり、10月の記念式典で特別功労感謝状を受賞した。

## 5、事業を支える組織基盤と運営について

今年度は、狛江市の未使用部屋・施設を貸与され、市との連携協定を基に、地域の諸団体と連携を強め、フードバンクを「地域の仕組み」として強化していくチャンスだったが、コロナ感染拡大により足踏みすることとなった。しかし、一方で社会的にもフードバンクへの期待が高まる中、寄付・寄贈がこれまでになく集まったことや、役員・ボランティアの頑張りで少人数、短時間を心掛けて、増加した支援要請に応じて事業を継続して来られた。また、2カ所での活動となり、コロナ感染防止を図りながら、新たな組織運営の方法を模索しながらの活動となった。

### (1) 食品管理と事務所機能の改善

- ① 事務所、倉庫の移転により、倉庫面積の拡大、備品類の整備で食品在庫量と食品管理を充実することができた。
- 狛江市より事務所/倉庫、市庁舎作業所の無償貸与に伴い、施設修繕や食品管理に備品類も揃えてもらう。  
・備品: 米保冷貯蔵庫2台(市庁舎、倉庫用)、精米機、倉庫内乾燥機 ・修繕: 階段滑り止め修繕、畳替え等
  - 赤い羽根中央共同募金会「フードバンク活動等応援助成金」を活用して、カゴ台車、平台車を購入し倉庫整理。

西野川倉庫



狛江市庁舎作業所



### ② 市庁舎作業所の活動

コロナ禍になって、開所時間を変更する時期もあったが、第2波・第3波と経過して緊急事態宣言下においても、市民寄贈受け付けは止めずに継続してきた。今後もコロナ感染拡大状況によって、活動継続できるかの検討や感染防止策の徹底と感染した場合を想定してのリスク管理も考えておく必要がある。

コロナ禍第1波時期、一部のボランティアに活動休止してもらい、第2波以降の落ち着いたところから、密にならないよう役員・有償スタッフなど少人数での対応を基本にボランティアに戻ってもらった。マスク着用フェイスシールド配布、窓開けや作業場入口台の設置など感染対策を工夫し、各自が感染防止策を守ってくれたことで今年の活動を継続できた。

2カ所での活動になり、開所日には食品セットと西野川倉庫から運ばれる食品棚入れや在庫確認を行うが、使い

やすい食品棚の整理等が課題となっている。少人数交代制となるため、新しいボランティアの募集や参加も今後は検討していきたい。

### ③ 西野川の事務所/倉庫での活動。

開所日活動の担い手として有償スタッフ2名と、役員や数名のボランティアの参加で何とか活動の継続ができた。

事務所・倉庫では企業・団体からの寄贈食品をはじめ、西野川倉庫でも市民寄贈が入り、さらに定期的に届くお米や他都市からの食品も届く。お金の寄付を通りかかりに持って来てくれることもあった。寄贈受付場所に加えて、地域の諸団体が食品を受け取りに来る場所として、対応に忙しい日も多かった。

また倉庫だけでなく事務所も、感染防止で窓を開け、冬はコートを脱げない寒さの中での活動となった。

ひとり親子育て応援では、食品の直接受け取りも倉庫で取組み、スタッフの熟練や準備の手際の良さで、スムーズに進めることができた。子ども連れや子どもだけで取りに来るケースもある。3年目を終えて、スタッフから温かい声かけが、ひとり親子育ての励みや支えになっていると感謝の声が多くなった。団体にとっても体験して実感が持て、モチベーションがあがる取り組みでもあった。コロナ禍で、この事業に少数しか関わっていないことが残念である。

また分かれて活動することで団体の求心力のない活動を余儀なくされ、集まることもできず、苦肉の策で、冬には忘年会キットを準備し、関わってきた役員・ボランティアに配布したりもした。



## (2) ボランティアの参加と研修

事務作業スペース・倉庫も広くなったが、コロナ感染防止で毎週月曜・木曜に活動に来る人はほぼ固定的となっている。

- ボランティア参加状況 平常の活動は役員 6 名、ボランティア 12 名で対応
  - ・市庁舎作業所 活動日毎 2~3名(役員 1 名、ボランティア 1~2 名)
  - ・倉庫/事務所 活動日毎 2~3名(役員 3 名、ボランティア 3~4 名)

中和泉事務所では事務局会議、課題別検討会で役員・ボランティアで活動や情報の共有を図ってきたが、西野川ではコロナ禍になり活動への意見を広く聞く場がなく経過している。食品ロスを生活困窮者支援に活かす活動に関わって、担っている作業の達成感やモチベーションを持って取り組める何かが必要になっている。



## (3) 組織基盤の整備

### ① 各会議の役割について。

業務執行の検討を行う理事会は、オンラインも活用して毎月定期的に行うことができた。理事会での業務検討は、理事の中でスタッフでもあるメンバーと直で事業にかかわっていない理事では感じ方も違い、判断しにくい議題もあるため、事務局に判断を委ねられがち。そのため、事務局では実質的な企画遂行機能を強化することが、喫緊の課題であった。

事務局では、事務局スタッフでの仕事の分担が明確化されてきて、会計・組織管理事務等のデータ入力方法の見直しも図ってきた。また、事務局会議の開催により事業の取り組みの詳細を決めるやり方で、有償(定額も含め)スタッフを中心にひとり親子育て応援事業等を進めて来れた。しかし、感染下でどうしても少人数でやっていくことで、動きやすい実はあるが、少人数のメンバーへの負担増の問題や誰もが関われ地域に広げる仕組みにしていこうという点では、今後の課題でもある。

② 組織の現状と組織課題の解決に向けて。

会員の加入状況については、3月31日現在、正会員 44 名(昨年47名)、賛助会員個人 51名(昨年52名)、団体 5(昨年 5)で、会員拡大の取組みを行わなかったことで、昨年度より減少した。コロナ感染の中でも、会員への働きかけや会員継続・拡大など支援者の拡大につながる活動が必要。

組織課題の解決に向けて取り組むべき一年が、コロナ禍で先延ばししてきた感は否めない。ほぼ全ての活動を担う専従役員の 2 名が多くを担い、役割分担が理事の中でも進んでいない問題は解決途上となっている。理事会と事務局の機能の見直しや会議・組織の改善点は引き続き課題である。

③ 事業資金の確保と財政基盤の確立。

今年度は、事務所/倉庫の移転やコロナ禍で社会的にフードバンクへの期待の高まりから、例年になく寄付が集まった。また、9月に解散した東京南部生協組合員の皆様から、5月、10月の2回、総額 475,460 円の寄付を受けた。

- 寄付者総数：287件、寄付総額：2,838,940 円(昨年 836719 円の約 3.4 倍)
- ・企業・団体5(東京南部生協、府中派遣村、ハンディキャブこまえ、狛江三田会、月末食堂)
- ・個人282名(昨年39名の約7倍) \*クレジットでのマンスリーサポーターは 14 名

10万円以上4名、5万円以上11名をはじめ高額の寄付者には「八月のひかり」(児童文学者、会員の中島信子氏著書)を贈呈した。また狛江商品券の寄付が4名からあった。

- 助成金：
  - ・6月、赤い羽根「臨時休校中の子どもと家族を支えよう緊急支援助成事業」 61,777 円
  - ・7月 11月、赤い羽根「新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援フードバンク活動等応援助成」 500,000 円
  - ・8月、読売光と愛の事業団子ども育成支援事業助成 400,000 円
  - ・12月 MDRT 助成金 200,000 円
- \* MDRT とは世界で活躍する生命保険募集人のプロフェッショナルが会社の垣根を越えて相互研鑽や社会貢献活動をしている団体。

会員の拡大と地域の企業・団体や個人の賛助・寄付によって、事業財政基盤の確立を目指したが、コロナ感染拡大により積極的な訪問活動を控えることとなってしまった。ファンドレイジングの支援を受けてきたネクストワンとの取組みも思うように進められず、今年限り終了となった。人との接触が制約されるコロナ禍にあっても、持続可能なフードバンク活動を支えていけるファンドレイジングの工夫した取組みが必要とされる。



6、2020 年度活動経過（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

年	月	日	活動内容
2020	4月	1日	西野川事務所・市庁舎の2か所で活動開始
		2日	狛江市副市長との面談
		5日	緊急食料支援配送完了
	5月	30日	第4回通常総会開催
	6月	21日	ひとり親家庭へおすそ分け食品提供
		25日	福祉相談課・こま YELL との三者協議
	7月	1日	市とひとり親家庭食品提供覚書交わす
		2日	こま YELL とフードバンク狛江の二者協議
		5日	FM ラジオコマラジ出演
	8月	1日～12日	夏休みひとり親応援申込
		3日～20日	夏休みひとり親応援受渡し・配送
	9月	11日	東都生協フードドライブ寄贈食品の受取
	10月	11日	ひとり親へ「おすそ分けお渡し会」第2弾実施
		16日	子ども政策課と振返り協議/福祉相談課・こま YELL と3者協議
		25日	市制施行50周年で特別功労感謝状を受賞
		26日～30日	食品ロス削減月間、市庁舎ロビーでパネル展示
		27日	東京南部生協の解散で最後の支援募金が届く
	11月	12日	東都生協「未来につなぐ募金」追加分の食品を受領
		27日	FM ラジオコマラジ出演
	12月	3日	ひとり親冬休み支援申込開始
		5日	福祉カレッジで理事長講演
		7日	ひとり親家庭に発送開始
		15日	読売新聞武蔵野版に記事掲載
		20日	コロナ困りごと相談会に食品提供
		22日	NHK 撮影、ニュース7で放映
		23日	ひとり親冬休み支援申込締切
		24日	冬休み支援発送終了、仕事納め
2021	1月	4日	市庁舎仕事始め
		7日	調布 FM 街角レポート出演
		14日	福祉相談課・こまエール・フードバンク狛江 三者協議
		21日	社会福祉法人連絡会からフードドライブ品の寄贈受取
	2月	9日	子ども政策課と冬休み支援の振り返り
		18日	カタール・アルジャジーラ局取材
		19日	東都生協フードドライブ品の仕分け・寄贈受取
	3月	1日	春休みひとり親子育て応援申込み開始(10日締切)
		4日	春休み食品セット・発送開始
		7日	中央公民館第3回居場所講座で理事長活動報告
		14日	春休み受渡し・発送完了

